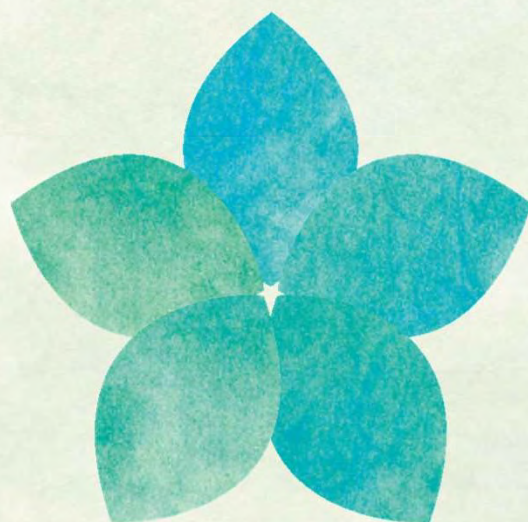




根を深くはり、梢を見あげる 日本語教育の樹よ育て

2021年春の一般公開プログラムでは、
登壇者がひとりひとり、日本語教育研究・
実践に持つ目的と夢を語ります。

皆で、日本語教育の樹を育てていきましょう。
より深く根をはれるように。
たくさんの葉が、そよぐように。



登壇者
(五十音順)

神吉宇一

金孝卿

嶋田和子

砂川裕一

土井佳彦

藤森弘子

日本語教育学会 調査研究推進委員会

2021年度 日本語教育学会春季大会
一般公開プログラム
(無料・事前申し込み不要)



2021年5月22日(土)
10:00~12:00
オンライン開催

根を深くはり、梢を見あげる 日本語教育の樹よ育て

日本語教育学会は、「人をつなぎ、社会をつくる」ことを使命とする学会です。学会の活動は、大きな樹にたとえることができるかもしれません。その樹のあちこちで、言語教育研究者・実践者たちが、頭を悩ませ、実践やデータに向き合い、悩み、明日の社会を夢見ています。2019年には、日本語教育推進法が成立しました。日本語教育学の樹は、より深く広く根をはり、より高く梢を伸ばしていかなければなりません。このプログラムでは、学会の活動範囲を象徴的に描く樹形図を示したあとで、登壇者が、それぞれの研究・実践の夢を語ります。

日本語教育学会 調査研究推進委員会



神吉宇一 武蔵野大学、日本語教育学会副会長

日本語教育・言語教育実践を通して、人々が相互理解を深め、協働してよりよい社会をつくっていくことに尽力したいと思っています。日本社会はこれから急激な人口減少社会に突入し、そこに必ず「外国人」が入ってきて多様化します。でも実は、外国人がいてもいなくても、日本社会は多様です。互いの違いを尊重し、寛容なよりよい社会をつくりたい。そのためにさまざまな人たちと共に研究や実践を深めていきたい。それが私の夢です。そのためにはクリティカルな意識・視点・姿勢を持つことが求められると思います。そしてクリティカルな意識・視点・姿勢に関して重要なことは、それが常に自分自身に向けられていることだと思います。



金孝卿 麗澤大学

私は20年前に留学生として来日しました。その後、日本の政府系団体で海外の日本語教育支援の仕事を経験し、現在は大学で日本語教育や留学生支援を行っています。海を越え、異文化の中に身を置く人々はどんなことを学び、どのように自分のアイデンティティを進化させ、市民として成長していくのでしょうか。それには、多様な日本語との出会い、多様な日本の人々とのつながり、多様性のある日本社会との関わりが欠かせません。私は当事者としての経験をもとに、学校、職場、地域において、「異なり」を「価値」として捉えるための新たなアイデンティティの発達を支えることに努めたいと思っています。



嶋田和子 アクラス日本語教育研究所代表理事

日本社会では、これからますます外国の人が増え、日本語教育・支援が重要な役割を果たします。そこで、日本語教育の魅力・やりがいを発信し、日本語教師をめざす人が増えるよう尽力したいと思います。また、共生社会の実現には、外国の人が日本語を学ぶだけではなく、日本人の意識が変わることも重要です。まずは、外国の人々を「ともに社会をつくる仲間」として考える姿勢が求められます。日本語で人々がつながる社会の実現に、日本語教育が貢献できることは何だろうかと自問自答しつつ、さまざまな人々と語り合うこと、それが私の夢です。



砂川裕一 群馬大学名誉教授

そろそろマンガを卒業しろと父親が買い与えてくれたのが子供向けのSF小説でした。未知の世界に果敢にクールに挑んでいく人々を描くSFに魅せられて子供時代を過ごしました。「あり得ないことなんてあり得ない」という、未知であることに究極の可能性を見て取ろうとするような思考感覚を覚えてくれたのが、幼かった頃のSF体験でした。青空の、その彼方に未知の描像を思い描こうとする幼い白日夢が、長じて、下界の腹立たしい現実と遭遇したとき、ことばの力でこの世界をつかみたいという夢がしたり落ちてきたような気がします。見果てぬ夢、でしょうか。



土井佳彦 日本福祉大学

「日本語学習の重要性はわかっているが、他のことすべてを犠牲にしてまで勉強しなさいとは言えない。日本語学習環境を整備し、日本語学習を促進していくこと自体は大事だし、決してやめてはいけないと思う。でも、日本語教室で日本語を勉強しないことだけで、日本語学習意欲の有無や、その人の努力や人間性を判断しないでほしい。」—これは、ある自治体の会議で外国人委員の一人が発した言葉です。私は、こうした一人ひとりの置かれている状況や価値観を尊重した、人間味溢れる温かな日本語学習環境が創られることを夢見て取り組んでいます。



藤森弘子 帝京大学、東京外国語大学名誉教授

日本語を教え始めて40年近くになります。70年代当初は知識重視型でしたが、現在は自己発信や協働学習による異文化理解の実践が重視されるようになってきました。もとより、日本語学習者が楽しく学べ、自ら発話できるような日本語の習得を目指しています。その実現のために学習者、教育者ともに活用できる「アカデミック日本語Can-doリスト」や教材の開発に携わってきました。現場と研究をつなぐ立場として、「共に学び合う」というこれからの多文化共生社会に合ったコミュニケーションのあり方を考えていきたいと思っています。

定員：1,000名(先着順) 無料・事前申し込み不要 問合先：公益社団法人日本語教育学会
〒101-0065 東京都千代田区西神田2-4-1 東方学会2F
TEL 03-3262-4291 E-mail: office@nkg.or.jp <http://www.nkg.or.jp>

